

## 種の起源の多様性

### 1) 植物相

小笠原諸島の植物相は、東南アジア系、ポリネシア系、特殊固有系、本州系を起源に持つと言われている<sup>1</sup>。これらの植物がいつごろどのようにして入ってきたのかは分かっていない。種の分化の程度からみると、熱帯性の性質の強いポリネシア系と固有系の植物が最も古く、種類数の多い東南アジア系の植物はより新しいものと考えられる。熱帯性の植物でつくられていた小笠原の林は、その後、亜熱帯性の性格の強い東南アジア系の植物で置きかわるような条件が作られたものと思われる。陸続きでなければ分布を広げられないブナ科植物が自生しないことから、小笠原が本州や琉球と陸続きであったとは考えられない。

また、ムニンフトモモ (*Metrosideros boninensis*) は最も近縁な種がフィジーに存在し、古い起源の種であると考えられている。

系統毎の主な植物種は、表に示すとおりである。また、ムニンフトモモの系統分類図を図に示す。

表 植物相の起源 4 系統毎の主な植物種

起源の系統	主な植物種	近縁種の分布域
東南アジア系	シマゴショウ、ムニンヒメツバキ、シマイスノキ、セキモンノキ、シマホルトノキ、ムニンアオガンピ、ヤロード、オオシラタマカズラ、ムニンハナガサノキ、オガサワラクチナシ	東南アジア
ポリネシア系*	ムニンフトモモ、ムニンビャクダン、ノヤシ、オオハマギキョウ	ポリネシア ハワイ諸島 フィジー
特殊固有系	ワダンノキ、シマザクラ、マルバシマザクラ、アツバシマザクラ、オガサワラポチョウジ	類縁種は知られない
本州系	チヂマキイチゴ、ムニンイヌツゲ、シマモクセイ、トキワサルトリイバラ、ムニンヒサカキ、ナガバキブシ、ハザクラキブシ	本州

\* : ここでは下記資料中に記載されているポリネシア系という用語を使用しているが、近縁種の分布は、ハワイ諸島やメラネシア(フィジー等)、ミクロネシアも一部含んでいる。

資料：小笠原植物図譜(増補改訂版)(豊田 武司編、2003.2)

<sup>1</sup> 小笠原植物図譜(増補改訂版)(豊田 武司編、2003.2)

- 凡例  
 BI:Bonin Is.  
 Fj:Fiji  
 Hw:Hawaii  
 KI:Kermadec Is.  
 LHI:Lord Howe Is.  
 NC:New Caledonia  
 NZ:New Zealand  
 Rt:Rarotonga  
 SI:Solomon Is.  
 Sm:Samoa  
 Th:Tahiti  
 Vt:Vanuatu

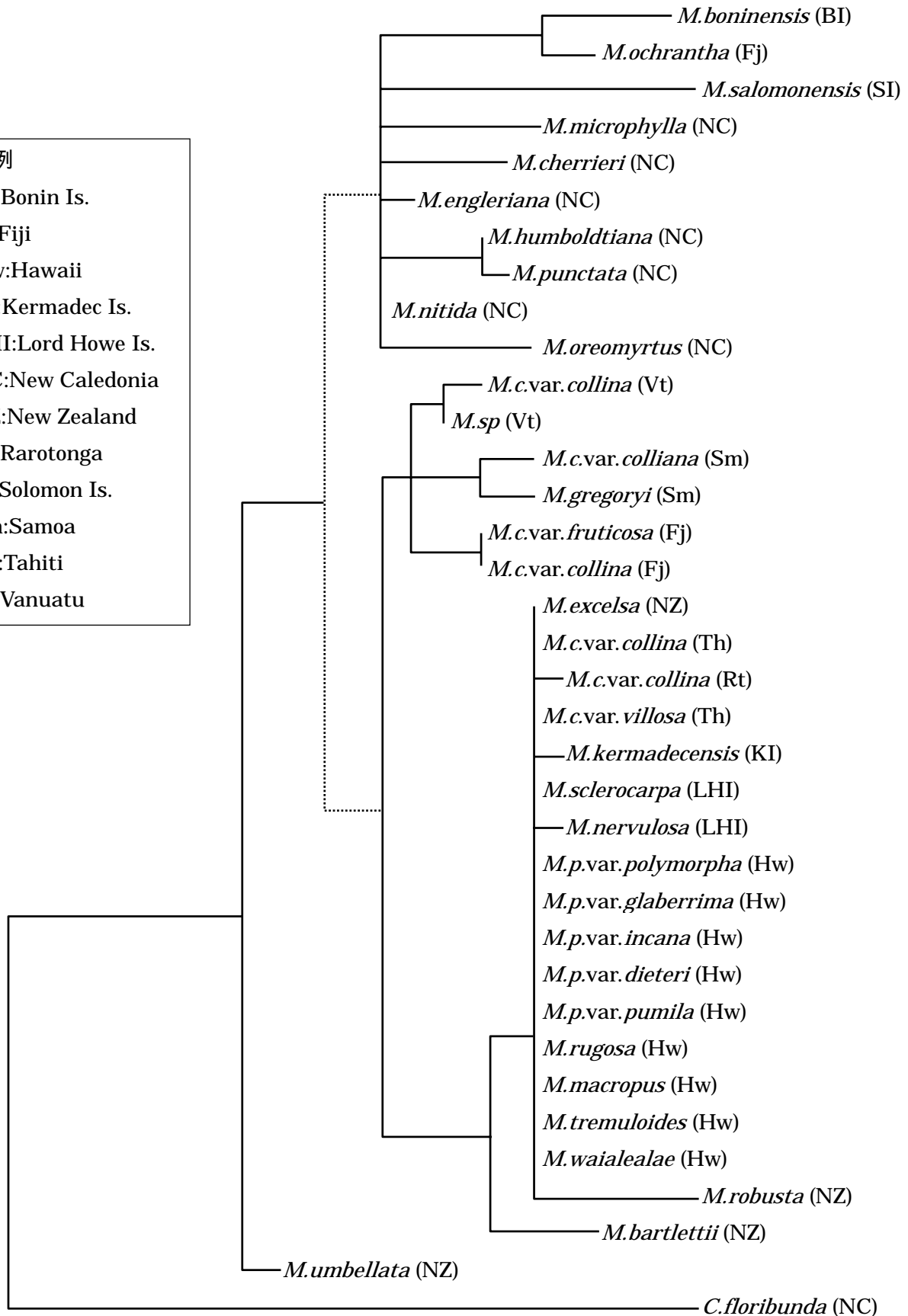


図 ムニンフトモモの系統分類図

資料 : S.D.Wright, C.G.Yong, J.W.Dawson, D.J.Whittaker and R.C.Gardner (2000)  
 Riding the ice age El Nino? Pacific biogeography and evolution of *Metrosideros*  
 subg. *Metrosideros* (Myrtaceae) inferred from nuclear ribosomal DNA. Proc.  
 Natl. Acad. Sci. USA, Vol.97, Issue 8, 4118-4123